

高知工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	離散数学	
科目基礎情報						
科目番号	I3053		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	SD 情報セキュリティコース		対象学年	3		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	教材はgoogle classroomで提供する。					
担当教員	高木 和久					
到達目標						
計算機科学の基礎である、(1)集合と論理、(2)関係と写像、(3)数列、(4)固有値、(5)グラフ理論の基礎概念を理解し、課題として提示される演習問題(大学入試問題を含む)を解けるようになることを目標とする。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
集合と論理		集合と論理に関する基礎事項を問題の解法に応用できる。	集合論と論理に関する基礎事項を説明できる。	集合論と論理に関する基礎事項を説明できない。		
関係と写像		関係と写像に関する基礎事項を問題の解法に応用できる。	関係と写像に関する基礎事項を説明できる。	関係と写像に関する基礎事項を説明できない。		
数列		数列に関する基礎事項を問題の解法に応用できる。	数列に関する基礎事項を問題の解法に応用できる。	数列に関する基礎事項を問題の解法に応用できる。		
グラフ理論		グラフ理論に関する基礎事項を問題の解法に応用できる。	グラフ理論に関する基礎事項を問題の解法に応用できる。	グラフ理論に関する基礎事項を問題の解法に応用できる。		
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 (C)						
教育方法等						
概要	離散数学は、集合、論理、グラフ理論などを扱う数学の分野で、計算機科学の基礎となる。その内容には様々なものが含まれるが、本科目では、その中でも、(1)集合と論理、(2)関係と写像、(3)数列、(4)固有値、(5)グラフ理論の初歩を学ぶ。					
授業の進め方・方法	基礎事項を講義によって解説し、それを演習問題を通して確実に理解し、応用していけるようになることを目指す。また、必要に応じて、Pythonによるプログラミングを用いる。					
注意点	離散数学では、微分積分は必要ではなく、それよりも整数の扱いが重要である。また、漸化式で定義される数列の一般項を、行列を用いる事によって容易に求めることができる。単に基礎公式を暗記し、そのまま使うことで解決する問題はほとんどなく、問題毎の考察が必要となる。大学入試問題を数多く解くことにより、基礎的な計算力の涵養を図る。					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	集合	集合の基礎を理解し、関連する演習問題が解ける		
		2週	論理	論理の基礎を理解する		
		3週	ブール代数	ブール代数の定義を学び、実例について理解する		
		4週	写像と置換	写像とその性質(単射、全射)について理解し、関連する演習問題が解ける		
		5週	組立除法とその拡張	組立除法を2次式で割る場合に拡張する方法を理解し、実践できる		
		6週	剰余に関する大学入試問題	剰余に関する大学入試問題が解けるようになる		
		7週	2数のn乗の和を求める大学入試問題	2数のn乗の和を求める大学入試問題が解けるようになる		
		8週	中間試験			
	2ndQ	9週	行列の固有値と固有ベクトル	行列の固有値を理解し、固有ベクトルを求めることができる		
		10週	余因子行列と行列のべき乗	余因子行列を用いて行列のべき乗を計算できる		
		11週	漸化式で表わされる数列の一般項	漸化式で表わされる数列の一般項が求められる		
		12週	フィボナッチ数列とペル数列	フィボナッチ数列とペル数列を理解する		
		13週	行列のスペクトル分解	行列のスペクトル分解を理解する		
		14週	バビロニア・メソッド	平方根に関するBabylonian methodを理解する		
		15週	グラフ理論と一筆書き	グラフ理論の基礎概念を理解し、関連する演習問題が解ける		
		16週	グラフ理論と木	木について理解し、関連する演習問題が解ける		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	数学	数学	数学	整式の加減乗除の計算や、式の展開ができる。	3	
				因数定理等を利用して、4次までの簡単な整式の因数分解ができる。	3	
				分数式の加減乗除の計算ができる。	3	
				実数・絶対値の意味を理解し、絶対値の簡単な計算ができる。	3	
				平方根の基本的な計算ができる(分母の有理化も含む)。	3	
				複素数の相等を理解し、その加減乗除の計算ができる。	3	
解の公式等を利用して、2次方程式を解くことができる。	3					

			因数定理等を利用して、基本的な高次方程式を解くことができる。	3	
			簡単な連立方程式を解くことができる。	3	
			無理方程式・分方程式を解くことができる。	3	
			1次不等式や2次不等式を解くことができる。	3	
			恒等式と方程式の違いを区別できる。	3	
			2次関数の性質を理解し、グラフをかくことができ、最大値・最小値を求めることができる。	3	
			分数関数や無理関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	3	
			簡単な場合について、関数の逆関数を求め、そのグラフをかくことができる。	3	
			累乗根の意味を理解し、指数法則を拡張し、計算に利用することができる。	3	
			指数関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	3	
			指数関数を含む簡単な方程式を解くことができる。	3	
			対数の意味を理解し、対数を利用した計算ができる。	3	
			対数関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	3	
			対数関数を含む簡単な方程式を解くことができる。	3	
			2点間の距離を求めることができる。	3	
			内分点の座標を求めることができる。	3	
			2つの直線の平行・垂直条件を利用して、直線の方程式を求めることができる。	3	
			簡単な場合について、円の方程式を求めることができる。	3	
			放物線、楕円、双曲線の図形的な性質の違いを区別できる。	3	
			簡単な場合について、不等式の表す領域を求めたり領域を不等式で表すことができる。	3	
			積の法則と和の法則を利用して、簡単な事象の場合の数を数えることができる。	4	
			簡単な場合について、順列と組合せの計算ができる。	4	
			等差数列・等比数列の一般項やその和を求めることができる。	4	
			総和記号を用いた簡単な数列の和を求めることができる。	4	
			不定形を含むいろいろな数列の極限を求めることができる。	4	
			無限等比級数等の簡単な級数の収束・発散を調べ、その和を求めることができる。	4	
			ベクトルの定義を理解し、ベクトルの基本的な計算(和・差・定数倍)ができ、大きさを求めることができる。	3	
			平面および空間ベクトルの成分表示ができ、成分表示を利用して簡単な計算ができる。	3	
			平面および空間ベクトルの内積を求めることができる。	3	
			問題を解くために、ベクトルの平行・垂直条件を利用することができる。	3	
			空間内の直線・平面・球の方程式を求めることができる(必要に応じてベクトル方程式も扱う)。	3	
			行列の定義を理解し、行列の和・差・スカラーとの積、行列の積を求めることができる。	3	
			逆行列の定義を理解し、2次の正方行列の逆行列を求めることができる。	3	
			行列式の定義および性質を理解し、基本的な行列式の値を求めることができる。	3	
			線形変換の定義を理解し、線形変換を表す行列を求めることができる。	3	
			合成変換や逆変換を表す行列を求めることができる。	3	
			平面内の回転に対応する線形変換を表す行列を求めることができる。	3	
			1変数関数のテイラー展開を理解し、基本的な関数のマクローリン展開を求めることができる。	3	
専門的能力	分野別の専門工学	情報系分野	情報数学・情報理論		
			集合に関する基本的な概念を理解し、集合演算を実行できる。	4	
			集合の間の関係(関数)に関する基本的な概念を説明できる。	4	
			ブール代数に関する基本的な概念を説明できる。	4	
			論理代数と述語論理に関する基本的な概念を説明できる。	4	
			離散数学に関する知識をアルゴリズムの設計、解析に利用することができる。	4	
			コンピュータ上での数値の表現方法が誤差に関係することを説明できる。	4	
			コンピュータ上で数値計算を行う際に発生する誤差の影響を説明できる。	4	
			情報量の概念・定義を理解し、実際に計算することができる。	4	
			情報源のモデルと情報源符号化について説明できる。	4	
			通信路のモデルと通信路符号化について説明できる。	4	
評価割合					

	試験	課題	合計
総合評価割合	60	40	100
基礎的能力	40	20	60
専門的能力	20	20	40